

まよらさ81

浦添市美術館ニュース
2016年12月1日(年3回発行)

きよらさ:
「美しさ」「きよらかさ」を表す
琉球の古語



楼閣人物螺鈿稜花形食籠
(九州国立博物館蔵)



朱漆梅月螺鈿六角盆
(浦添美術館蔵)



葡萄栗鼠螺鈿籠
(東京国立博物館蔵)
TNM Image Archives

●中国と朝鮮の螺鈿
本展では14世紀から19世紀の中国漆器が並びます。華やかな形と細密な文様表現は、今でも人々の眼を引き付けて離しません。
一方、お隣の朝鮮半島では、螺鈿は独特の展開をみせました。繊細な高麗時代の唐草文様の螺鈿表現と、李朝時代の民画風の吉祥文様やアワビの割貝・玳瑁の使用という特徴的な表現との対比をご堪能ください。

きらめきで飾る

—螺鈿の美をあつめて—

《螺鈿(らでん)》とは、夜光貝やアワビなどの貝殻を薄く加工し、文様の形に切り取って漆器に貼る技法です。貝のきらめきは昔から人々を魅了し、各地で特徴的な螺鈿の漆器が作られました。

九州国立博物館と共同で開催するこの展覧会では、県内外の螺鈿の優品をあつめ、その美を紹介します。浦添展では九州展の作品を一部入替え、追加し、90点余りの作品が並びます。

●琉球の螺鈿

琉球近海で採れる夜光貝は有史以前から交易品として九州などへ渡り、琉球王国時代には螺鈿の漆器は献上品として中国や日本へ送られました。

古い琉球漆器では、朱漆螺鈿や金箔を用いる箔絵技法と組み合わせた葡萄栗鼠文様の作品が目立ちます。

また、近世琉球の細密な螺鈿や、貝を大きく加工できるようになってからの文様表現の変化も多様な作品で紹介していきます。

●タイ・ベトナム・インドの螺鈿

東南アジアでは、タイやベトナムの螺鈿が知られています。

タイでは王宮や寺院などの建築物や、家具、道具などに螺鈿が用いられています。この展覧会では、仏具の鉄鉢が初紹介されます。

また、インドの箔絵と螺鈿の盆、ベトナムの十字架など、珍しい作品が並びます。形や文様の違いと螺鈿文化の広がりをお楽しみください。

●日本の螺鈿

日本の螺鈿もまた時代や目的によって独特の表現を生み出しました。精緻な螺鈿で飾られた鞍は、鎌倉時代の日本人の美意識が窺えます。

また外国向けには、金粉を用いる時絵技法と螺鈿を組み合わせた漆器や、貝に彩色を施した華やかな漆器が作られます。

平成28年度第III期常設展示 技あり! 琉球漆器

漆器の表面に文様をつける加飾技法はいくつもありますが、琉球漆器には沈金・螺鈿・箔絵・漆絵・密陀絵・堆錦が主に用いられています。また、一つの技法だけでなく、複数を組み合わせた漆器も多く見られ、様々な技法が織り成す多彩な表情は、琉球漆器の魅力の一つでもあります。今回の常設展では、琉球漆器に用いられた技法に焦点を当て、その技と美に迫ります。

●第一室 琉球漆器の歴史

琉球では、中国をはじめとする周辺諸国の影響を受け、15世紀頃には高度な漆器製作の技術があったとされています。まずこの部屋では、琉球漆器の歴史を紹介いたします。

●第二室 貼る—螺鈿・箔絵・堆錦—

螺鈿とは薄く加工した貝を貼りつける技法、箔絵とは金箔を貼りつける技法、堆錦とは漆と顔料を混ぜた堆錦餅と呼ばれる材料を薄く伸ばして貼る技法のことです。いずれも「貼る」という点で共通していますが、その印象はまるで異なります。見比べながら、それぞれの技法の特徴と美しさをお楽しみください。



朱漆花鳥堆錦螺鈿掛板

●第三室 描く—漆絵・密陀絵— 彫る—沈金—

「描く」技法には、漆で文様を描く漆絵と、油と顔料を混ぜた油絵の具のようなもので文様を描く密陀絵があります。漆絵では白や淡い色が出せないため、そうした色合いを表現したいときは密陀絵が用いられます。



朱漆花鳥沈金膳
また、「彫る」技法の中で、琉球で盛んに行われたのは沈金です。沈金刀で彫った溝に金箔を沈め文様を表現します。第三室では、これらの技法が用いられた膳や皿、重箱などを展示します。

●第四室 アジアの漆に技あり!

日本や中国、朝鮮半島、東南アジアには、それぞれ地域特有の技法があります。また、同じ技法であっても地域によって材料などに違いがあり、そのことによって見た目の雰囲気も異なります。第四室ではアジア各地の漆器をご覧ください。

●第五室 かたち・素材に技あり!

第五室では、かたちや素材に特徴のある漆器を展示します。

この機会に、「さまざまな「技」との出会いをお楽しみください。

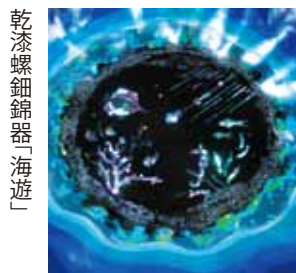
○会期 平成29年2月24日(金)~4月23日(日)
○観覧料 一般200円
シルバー65歳以上160円
大学生130円
高校生以下無料

漆芸家シリーズ2016

後間義雄展

—堆錦・沈金・螺鈿— 技から表現へ—
平成29年1月24日(火)
~2月5日(日) 無料

2012年度から開催している漆芸家シリーズ展の5回目は後間義雄氏を紹介いたします。後間氏は那覇市に生まれ、中学校を卒業して琉球漆器の老舗(株)紅房に勤めました。紅房では名工の先輩方のもと10年間、堆錦一筋に技を磨きます。そして、同業の琉球うるし工芸社へ移ってからは、さらに沈金を金城唯喜氏に、螺鈿を前田孝允氏(尚氏)とも県無形文化財技術保持者に学び、職人でありながら独自の作品を発表してきました。



後間氏の確かな技が支える創作の世界は、進化する伝統文様や沖縄の自然を写し取り、漆芸ならではの素材と方法で独特の世界を創り、表現しています。後間氏の50年余の活動を代表作20点余でご覧いただけます。ご本人によるギャラリートークや実演なども開催いたします。

美術館スケジュール 2016年12月~3月

| ■常設展 展覧会名称 | 会期 | 主催 |
|---|-------------------|---------------------------------|
| 「きらめきで飾る—螺鈿の美をあつめて—」 | 1/14(火)~2/19(日) | 浦添市美術館・九州国立博物館 |
| 平成28年度 第III期常設展 技あり! 琉球漆器 | 2/24(金)~4/23(日) | 浦添市美術館 |
| ■企画展示室 展覧会名称 | 会期 | 主催 |
| 第22回 沖縄県中学校総合文化祭 | 12/10(土)・12/11(日) | 沖縄県中学校文化連盟 |
| 第32回 浦添工業高校デザイン科卒業作品展 | 12/14(水)~12/18(日) | 沖縄県立浦添工業高等学校 |
| 第17回 浦添市小中学校美術作品展 | 12/21(水)~1/8(日) | 浦添市美術館 |
| KBC学園専修学校インターナショナルデザインアカデミー インテリア・建築デザイン科+ファッション科デザイン展 | 2/10(金)~2/12(日) | KBC学園専修学校インターナショナル デザインアカデミー |
| 漆芸家シリーズ2016 後間義雄展 | 2/9(木)~2/19(日) | 浦添市美術館 |
| 第43回 沖縄県工芸振興センター展 | 2/16(木)~2/19(日) | 沖縄県工芸振興センター |
| 絵画の行方—山城茂徳・山内盛博 二人展 | 2/22(水)~3/5(日) | 絵画の行方—山城茂徳・山内盛博 二人展実行委員会 |

開館時間 午前9時30分~午後5時 ※金曜日は午後7時まで(入館は閉館の30分前まで) 休館日 月曜日(祝日の場合は開館) ※12/28~1/4 年末年始休館